

分布：全国

## ミノフスマ ナデシコ 科)

ステルラリア アルシネ  
学名: *Stellaria uliginosa*

var. *undulata*

蚤の衾 別名：コゴケグサ、天蓬草、雀舌草

### 主な生育場所

田植え前の水田や田の畦、休耕田、畑など、やや湿った田畑やその周辺で多くみられる。ときに、非灌漑期の排水路や用水路の縁に生育することもある。また、庭先で見かけることもある。

### 特徴

高さ10~30cmほどの小型の植物。越年草とされているが、夏が涼しく積雪の少ない地域では、ほぼ通年で見られる。暖地では、種子で夏を過ごし、10月頃発芽してくる。葉は対生し、茎は無毛で細く、よく分枝する。径4mmほどの白い花が枝先に付き、群生するとよく目立つ。また、夏期には花びらをつけずに閉鎖花となることも多い。



名前の由来：対生する柔らかそうな葉を昔の夜具である衾(ふすま:現在の掛け布団のようなもの)にたとえ、蚤が使うほど小さいとしたことから。

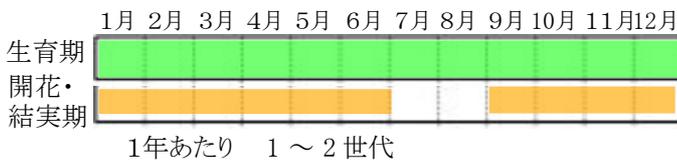
### <農業との関係>

土壌水分に対する適応性が高く、湛水~半乾燥までの広い水分域で出現しうるため、耕地でよく見かける雑草である。発芽適温は15~25℃で、5℃以下や30℃以上ではほとんど発芽しない。酸性から中性の肥沃な土壌を好み、主に秋に発生し、年内の生育量は少ないが、早春からよく繁茂するため、大発生するとムギ畑等で害草となる。



群落の様子

### <生活史> 関東 地方の例(目安)



<類似種> 道ばたやコンクリの隙間など乾いたところには、ミノツヅリ(蚤の綴り)がみられる。ミノフスマ同様に小型で対生の葉をつけるが、全草に毛があり、葉の色はミノフスマより濃い青緑色となり幅広で厚い。また、花卉は分裂しない。

### <一言うちく>

ミノフスマやハコベなどでは10枝の花びらをつけているようにみえます。しかし、これは一つの花びらが深く二股に切れ込み2枝に数えられるため、合計で10枝に見えているのです。花卉の基部をよく観察すると、実際には5枝の花弁であることが確認できます。



基部で2裂する5枚の花弁

### <人との関わり合い>

近縁のハコベは、春の七草にも挙げられるほど食用として有名だが、ミノフスマには食用の記録がない。しかし、中国では全草を風邪や痔の薬として用いることがあるようだ。

### <俳句や短歌への登場>

【季語:晩春】

畑を打つ音して蚤の衾かな (浅野夫美子)